令和7年度尾張旭市国民健康保険特別会計予算

討論要旨 榊原利宏議員

来年度の国民健康保険税は、3億円の一般会計繰入れを受けて、昨年12月末の仮算定時の国保税値上げ率11%以上あったものが、平均で約6.8%増に抑制されました。被保険者の負担軽減を考慮されたこととして評価できることとあります。とはいえ、平均保険料は前年の11万6,036円から約12万4,000円に伸びているのであり、大変な負担増であることに変わりはありません。

上昇し続ける医療保険料をどうするのかは、国保だけの課題ではありません。医療保険への政府の財政出動、国庫補助を増やし、保険料を引き下げることが求められます。この点での認識の一致が、昨年政府への意見書を上げた本市議会と理事者側でできていることが、一つの希望であります。

その国庫補助増額の財源ですが、突出して増加している防衛費を削減し、社会保障に回すべきではないでしょうか。国民の皆さんに問いたいところがあります。

ただし、その国庫補助増額が実現する以前でも、保険税を上げていかないような工夫や施策が必要であります。保険税引下げのための一般会計繰入れを国や県に認めさせることや、保険者である愛知県にも、かつてあった自治体国保への補助金を復活させることなどが必要だと考えております。

本市の国保運営協議会においても、仮算定段階での2桁の税率引上げに厳しい批判が出されました。引き続き、市民の声に耳を傾けた運営が重要であります。財政厳しい中でも、血の通った対応をお願いしておきます。

なお、第26号議案 国保税条例一部改正案では、来年度の税率を引上げとすることとなっております。しかし、税率は、医療分の所得割及び均等割が、標準保険料率に到達しておりません。赤字解消計画と併せて、今後6年かけて上げていくこととなります。第26号議案についても、これまで述べた理由をもって反対と表明をしておきます。